

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400253		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド平城山・山城		
所在地	京都府木津川市梅美台2丁目1-1		
自己評価作成日	令和3年10月16日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2671400253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2671400253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和3年11月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為外出等は控えているが、外出できない分、季節を感じて頂ける様に、行事や誕生日会を行い、生活にメリハリをつけている。また、ほぼ毎日体操をしたり、各個々のご利用者の出来る事(洗濯干し、たたみ、食事・おやつ作り、盛り付け、花壇・菜園手入れ、裁縫等)を一緒に行い、極力家庭に近い雰囲気作りもしている。  
面会はホーム内に入って頂けない為、ガラス越しの面会をしてもらい、本人様のご様子を見て頂いている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、木津川市の新興住宅地である梅美台に立地する3階建ての事業所で1階、2階部分にグループホームです。新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流や外出が難しい中、職員が得意なことをレクリエーションに提案して実施したり、通路でのリハビリなど各フロアで取り組んでいます。また、誕生日以外に月1回行事を企画し、敬老会など大きな行事では1、2階フロア合同でパン食い競争をリビングで開催するなど事業所内で楽しめるよう工夫しています。またバルコニーのプランターで作った野菜の収穫を楽しんでいます。転倒のリスクがある方でも事業所の方針を家族に説明した上でセンサーマット等は使用しておらず、職員がこまめに見守りを行うなど手厚いケアであることが見て取れます。職員間はコミュニケーションがとれ良好な関係が築けておりケアにも良い影響があるといえます。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 自分らしい安心できる生活をお手伝いします。 2. 入居者の尊厳を守ります。 3. 地域との連携に努めます。 上記の運営理念を玄関先・台所等、目の付く所に貼り付けし、実践する様、心掛けています。	法人の運営理念は玄関や共有スペースに掲示し入職時に説明を行っている。理念を踏まえ目標を設定し、その目標に沿ったケアの実践に取り組んでいる。ケアが理念に沿っているかケア会議で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員になり、地域行事(夏祭り)や地域清掃・近隣の保育園行事等にも参加していたが、コロナが流行してからは、全ての行事が中止になっている。	新型コロナウイルス感染症の流行前までは地域の行事への参加や保育所との交流をしていた。自治会の会長からマスクの寄付があることなど良好な関係が伺える。法人の地域連携室が広報を行っている。	これまでの交流の中で築いてきた良好な関係が途絶えないように通信を配布するなど事業所の取り組みや状況を知らせるなどされてはいいかでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談や見学を受け入れている。現在コロナにより、中学生の体験受け入れも中止になっているが、ハローワークの求職者支援訓練の方は職場体験の受け入れをしており、その際に認知症について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2金曜日に開催していたが、現在はコロナの影響で書面開催に切り替えている。書面でも毎月の活動報告や身体拘束等について記載し、返信にて助言を頂戴した時は活用している。	新型コロナウイルス感染症の影響で2ヶ月に1回の開催は書面で行っている。木津川市高齢介護課、地域包括支援センター、地域代表、家族代表へ状況が報告されている。意見や要望等の返信があった場合は掲載している。意見としてヒヤリハット報告がないことが挙げられ、11月からインシデント・アクシデントで報告する予定である。議事録が玄関に置かれ閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢介護課とは、何かあった際に連絡のやり取りをしたり、協力関係を築く様に心がけている。事業所の現状の把握や、高齢介護課からも連絡をくださったりしている。	運営推進会議に市介護保健課から参加がある。新型コロナウイルス感染症対策でマスクや手袋などの配布、簡易陰圧装置の設置や確認などで頻繁に来所され、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、運営推進会議にて身体拘束について報告し、ご意見や助言等、頂戴している。また、5月と11月にケア会議で勉強会を開催し、どの様な事が身体拘束になるのか等、話し合っている。	身体拘束について年に2回勉強会が開催し話し合っている。玄関は施錠されているが、3階までの事業所内は自由に行き来できる。スピーチロックについてなど、職員からの相談等は運営推進会議で報告し、それについて意見やアドバイスをもらっている。身体拘束廃止に関する指針が玄関に置かれ誰でも見る事ができる。転倒のリスクがある方でも事業所の方針を家族に説明した上でセンサーマット等は使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、年に最低1回はケア会議で勉強会を開催し、どの様な事が虐待になるのか、また虐待の種類や内容等も伝えている。虐待ニュースが流れていたら、発信する様にしており、虐待のないケアを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されている方で、実際に後見人の方がおられる為、説明し、理解出きる様に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書・利用契約書等、入居の際に必要な書類を説明し、ご質問等があれば、説明しご理解頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは日頃からコミュニケーションを図って、意向を汲み取る様にし、ケア会議や申し送りノートで共有出来る様にしている。ご家族様とは面会時や電話でのやり取り時に意向を汲み取る様にし、ご要望がある際は早急に対応する様に心掛けている。また、契約時に苦情相談窓口の説明も行っている。	昨年まで家族への満足度アンケートを年一回年度末に実施していたが、現在は電話で聞き取るようにしている。歯科往診の契約書送付時に手書きの手紙を添えることで家族からコメントをもらっている。利用者からくみ取った意向や家族の意見や要望はケア会議や各ユニットに置かれている申し送りノートで共有して対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員が意見を言いやすい雰囲気作りにも努めている。職員の提案等を聞き、ご利用者にとって良いと思われることは反映し、職員本位の事は都度、説明している。	経営グループ全体でOJTチェックリストを活用した面談が年3回実施され、職員の意見や提案を聞く機会となっている。職員の得意なことを活かしたレクレーションの提案は可能なものは反映させ、職員間で協力しながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ウェルグループ全体で、やりがいや向上心を持って頂ける様、OJTチェックリストを使用し、教育・指導を行い、給料の査定にも反映出来る取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックリストを活用しながらの指導や、コミュニケーションを図りながら、各個々の長所・短所等を汲み取り、個々に合わせた指導を行っている。また、研修等あれば、順番に行ってもらおうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、現在は交流自体がほぼないが、研修等があれば、参加してもらい、グループワーク等で交流する機会を設ける様にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせ時や初期の面談時には困っている事や不安に思っている事等、お聞きし、安心できるような返答をする様に心掛けています。また、職員にも周知できるよう、申し送りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人とご家族の要望をお聞きし、ケアプランに取り入れ、説明させて頂いている。また、他のサービスを知りたい方はグループ内外の説明を行い、必要時には自グループの地域連携を紹介したり信頼関係を築く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネ等の関係者と連絡を取り合い、話の中から汲み取ったり、要望をお聞きしたりしている。ご希望時は特養の申込や他事業所等の相談等もお聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個々の残存能力や、したいと思っておられる事の見極めを行い、その方の出来る事(食事・洗濯・掃除・裁縫)ややりたい事(菜園・花壇)等、意向を伺いつつしてもらっている。また、必ず感謝の気持ちも伝える様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より、電話やガラス越しの面会等来られた時は、本人の日頃の様子等をお伝えしている。また、理解力が低下されているご利用者様の面会時にも、本人に誰が来られているかお伝えし、少しでも理解してもらえる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟や親戚の方が、面会に来られた際はご家族様と同様に、ご様子等をお伝えする様にしている。	新型コロナウイルス感染症の流行前までは身内との外出や外泊、友人との外出などに積極的に対応していた。市の敬老祝い会場などへも出かけていた。今後、また外出できる時期がくれば体調に考慮して要望には柔軟に対応していきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でコミュニケーションが取れる様に、座席位置の工夫をしたり、職員が間に入り、コミュニケーションを図っている。レクリエーション時にも極力ご利用者同士でも話せる様な雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居により、退居になられた方でも、ご家族等、関係者から連絡があった場合はお話をしたり、亡くなられたと報告頂いた場合はお通夜に参列させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との意思疎通が困難な方もいらっしゃるが、発言や表情等より、本人の気持ちを汲み取る様に心掛けている。また、不快感を感じない様に笑顔もしくは穏やかに過ごす様な対応を心掛けている。自ら要望を仰る方は可能な限りの要望に答える様にしている。	入居前に聞き取った生活歴や意向をアセスメントシートに記載し介護計画に組み込んでいる。普段の会話から思いや意向をくみ取るようにしている。意思疎通が困難な方は表情でくみ取るように努めている。聞き取った内容は申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や本人よりお聞きし、アセスメントシートに記載して、職員が周知出来る様にしている。また、普段の会話からも昔の話を仰ったら、職員間で情報共有する様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個々の過ごし方やその日その日の心身状態の確認等、申し送ったりしながら、本人の状態に合わせたケアを心掛けている。また、インシデントやアクシデントを活用しADLの状態も把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、ご家族には本人の様子をお伝えし、ご意見やご要望等も頂いている。また、職員の意見も聞き、介護計画に反映する様にしている。	ケアマネジャー、後見人、職員の意見も聞き取り、介護計画に反映させている。医師や看護師からはケア会議において意見を伺い反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個々にファイル作成し、日々の様子・バイタル・排泄状況・食事・水分量等々記録を残している。また、日常の変化や気づき等も記録に残し、ケア会議等でも話し合い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症共同生活介護の為、多機能を有しているとは言えないが、空床もあればお試しの利用も可能である。また、2ユニットでの合同の行事を行ったり、時にはエバホームとも合同で行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域の行事は中止になっており、参加は出来ていないが、本人に合わせたホーム内での行事には極力参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に往診があり、病院や薬局とも連携を図っている。内科以外では歯科往診もあり、他の専門医についても受診が必要な際は、主治医やご家族と相談し、受診して頂いている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることについて説明を行ったうえで事業所のかかりつけ医に変更している。専門医への受診については基本的には家族に依頼しているが、介助や医師への説明が不安との声があり事業所で対応している。口腔ケアは家族の希望に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤時は、日々の関りの中で気付いた事を報告し、必要時には看護師からの指示通りの処置を行ったり、適切な受診や看護が出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交え、病院の担当者ご利用者の現状や予後を話し合い、可能な限り、早期に退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大正生まれの方や、高齢の方もいらっしゃるため、ご家族様とは必要時には終末期について、話しをしている。今年は家族面談を行い、お一人看取りを行った。	入居時に重度化指針を用いて説明を行い同意書を得ている。必要時には医療面談を行い、口頭で説明を行っている。週2回来所する看護師に相談し、指示をもらうなど連携を図り取り組んでいる。看取りについての研修は月に1回実施され、法人研修へ参加した職員については伝達研修を行うようにして資料も回覧している。看取りの際には都度、職員へのケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成を行い、全職員への発信・周知を行っている。また、緊急時は基本管理者が対応しているが、職員にも指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画の作成を行い、年に2回エバホーム・はるみ保育園(年1回)と共同で避難訓練・消火訓練を行っている。地域の消防訓練はされていない為、参加出来ず。	年に2回昼夜想定で実施している。消火訓練に消防署が参加するが毎回ではない。避難訓練では歩行が可能な方は避難所の小学校まで行っている。備蓄は3日分整備している。	災害時には地域との連携が必要と考えます。これまでの関係性を活かして事業所での訓練へ参加を呼びかけるなどされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者各々々の人格を尊重しての言葉かけや対応方法を行えるよう、ケア会議等で話し合い、職員の意識の統一を図る様に心がけている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応の方法についてはケア会議で話し合い、状況に応じて使い分けている。OJTを教育方法としている。入浴は同性介助の希望があれば配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものや、やりたい事等、ご利用者の好きな事を会話の中から聞き出し、本人に選んで頂ける様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のライフスタイルに合わせ、個々のペースに合わせた生活を送って頂いている。居室で過ごしたいと思っている方は無理にリビングへ出て来て頂かず、見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通の出来る方は、衣類を選んで頂いたり、髪の長い方はご自身で髪をとき、ピンで止めてもらったりしている。意思疎通が難しい方は職員が衣類を選ぶが、毎日同じ衣類にならない様、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じる献立や、誕生日や行事時にはお弁当を注文したりしている。また、一緒に食事作りをしたり、盛り付けを手伝って下さったり、食器洗いを手伝って下さっている。	誕生日には好みのメニューを作ったり、行事食ではお弁当を注文するなど楽しめるよう努めている。一人ひとりの力を活かした役割分担をして手伝ってもらっている。食の進む声掛けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を重ねならない様にしたり、塩分や糖分を取りすぎないように配慮している。また、1日の水分量を確保出来る様、個々の水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・誘導を行っている。必要に応じて舌ブラシを使用したり、個々の残存能力の見極めを行い、出来る事はしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄状況を把握し、必要時には誘導や声掛けを行っている。また、出来る事は自身でして頂く様に、声掛け・促しを行い、出来ない所を介助している。	排泄の自立を重視した支援としてできるかぎり手を出さず見守るようにしている。排泄チェック表で把握し誘導や声掛けを行い自立できるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が出辛い方は、水分を多目に摂取して頂いたり、歩行や体操で、腸の動きを促進出来る様に心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本午前中に入浴をして頂いているが、昼からがいいと仰る方は、午後から入って頂いたり、夕方以降がいいと仰る方は、夕食前に入浴して頂いている。	こだわりのある方には同性介助を徹底している。入浴拒否のある方には時間を変更してみたり、声掛けに工夫している。柚子湯や入浴剤を使用して楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や掃除・歩行等、日常生活に沿った活動を通じて、個々に合った生活リズムを作り、安眠に繋がる様にしている。日中も居室で休まれたり、夜間もテレビを見てから休まれたりと、本人のペースに合わせ、眠って頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量については主治医の指示を確認し、支援にあたっている。また、服薬変更時は主治医と相談しながら、変更・調整等、行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯(干し・たたみ)、食事作りや裁縫等、各個人の残存能力に応じて役割分担を行い、して下さっている。また、プリンターや菜園等で、外の空気を吸って頂いたり気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、以前のように行事毎の外出は出来ていないが、散歩等には出掛けて頂いている。また、同敷地内に保育園があり、お砂場で遊んでいる所を見たり、隣が動物病院なので、動物を見たりしてもらっている。	新型コロナウイルス感染症の流行前までは近隣のスーパーへ食材の買い物に行ったり、初詣や季節ごとの花見などに行っていたが、コロナ禍では散歩に行くようにしている。。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご家族からお金を預かり、本人の物を購入等していたが、現在は買い物等にも行けない為、お金を持っておられる方はいらっしゃらない。買い物等が可能になれば、ご家族と相談していく予定である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙が届いた際は本人に渡し、自身の居室で管理している。また、ご家族やご兄弟より電話があった場合は、ご本人とも話して頂いたりしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じて頂ける様に、机やソファ等をリビングや食堂に配置し、気心のした方と会話出来るようにしている。また、四季折々の壁紙を貼り、季節を感じて頂ける様にしている。	職員と一緒に作った季節の壁紙を飾って季節感を取り入れたり、3階のベランダまで階段を昇り降りして洗濯物を干したり取り込んだり生活感を取り入れるなど工夫している。通路でリハビリを行ったり、一人になりたい時は各フロアのドア前にある面会用のスペースがデッドスペースになるなど気分転換も図れるなど一人ひとりに応じた工夫もしている。常時換気を行い、19時以降は暖色の明かりにするなど居心地よく過ごせるような配慮をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂など、各個々のご利用者が好きな場所で気の合った方と過ごせる様に、フロアの配置の工夫を行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しんだ家具や布団等、持って来られていたり、小物等は本人の好きな様に配置してもらい、各個々が心地良いと思われる空間作りを行っている。	備え付けのダンスとベッドのレイアウトは、初期アセスメントの際に家族に提示している。入居後は転倒の危険がある場合など状況に合わせて説明を行いレイアウトを変更している。写真を貼るなど本人が心地よく過ごせるよう配慮している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーとなっており、手摺を伝う事で、ほぼ全ての場所の移動が出来る様になっている。また、各居室・トイレ・浴室等、表記して分かりやすくしている。	